

(様式第1号別紙1-1)

介護職員養成研修課程カリキュラム表 (介護職員初任者研修課程)

科(科目)名	内 容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 (6時間)	① 多様なサービスの理解	講義及び演習：介護保険や保険外サービスについて講義を行い、身近なサービスを含め理解を深める	(1)-①
	② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	講義及び演習：視聴覚教材にて実際の現場をできるだけ具体的にイメージできるようにする	(1)-②
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	① 人権と尊厳を支える介護	講義及び演習：人権と尊厳について講義を行い、演習にて尊厳を支えるということはどういうことなのかなどについての理解を深める	(2)-①
	② 自立に向けた介護	講義及び演習：自立に向けた介護について講義を行い、本当の自立支援というのはどういうことか理解する	(2)-②
(3)介護の基本 (6時間)	① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	講義及び演習：講義を行った後、家族による介護と専門職による介護の違いについて理解する	(3)-①
	② 介護職の職業倫理	講義及び演習：講義を行った後、演習にて介護職としての社会的責任などについて理解を深める	(3)-②
	③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	講義及び演習：講義を行った後、演習にて事故や感染などのリスクについて理解する	(3)-③
	④ 介護職の安全	講義及び演習：安全について講義を行い、演習にてストレスマネジメントのあり方等について理解する	(3)-④
(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	① 介護保険制度	講義及び演習：介護保険制度について講義を行い、演習にて概要やケアマネジメントの理解を深める	(4)-①
	② 医療との連携とリハビリテーション	講義及び演習：講義を行った後、演習にて医行為の考え方や、一定の要件のもと介護職が行える医行為を理解する	(4)-②
	③ 障害者福祉制度およびその他制度	講義及び演習：基本的な考え方などの講義を行った後、演習にて障害者福祉サービスなどの理解を深める	(4)-③
(5)介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	① 介護におけるコミュニケーション	講義及び演習：基本的なポイントなどの講義を行い、言語的・非言語的コミュニケーションを体験し、伝えられない要因と重要性を理解する	(5)-①
	② 介護におけるチームのコミュニケーション	講義及び演習：記録や報告の重要性などの講義を行い、演習にて記録の記載方法を体験し、内容・方法を討議し発表までつなげる	(5)-②
(6)老化の理解 (6時間)	① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	講義及び演習：老化に伴うこころとからだの変化の講義を行い、演習にて様々な変化に着目した心理的特徴の理解を深める	(6)-①

	② 高齢者と健康	講義及び演習：講義を行った後、演習にて疾病の症状や訴え、生活上の留意点などの理解を深める	(6)－②
(7)認知症の理解 (6時間)	① 認知症を取り巻く状況	講義及び演習：ケアの理念などの講義を行い、演習にて現在の状況やケアの考え方の理解を深める	(7)－①
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	講義及び演習：講義において認知症の理解を深め、演習にて健康管理の重要性などの理解を深める	(7)－②
	③ 認知症に伴うところからだの変化と日常生活	講義及び演習：認知症利用者の生活障害などの講義を行い、演習にて具体的な関わり方の理解を深める	(7)－③
	④ 家族への支援	講義及び演習：家族への支援の講義を行い、演習にて家族のストレスやレスパイトケアなどの理解を深める	(7)－④
(8)障害の理解 (3時間)	① 障害の基礎的理解	講義及び演習：障害の基礎について講義を行い、演習にて概念やICFについてグループ討議にて理解を深める	(8)－①
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	講義及び演習：障害の医学的側面などの講義を行い、演習にて各障害の特徴や支援の考え方の理解を深める	(8)－②
	③家族の心理、かかわり支援の理解	講義及び演習：障害者家族への支援の講義を行い、演習にて家族のストレスやレスパイトケアなどの理解を深める	(8)－③
(9)ところとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	【ア 基本知識の学習 (10～13時間)】		
	① 介護の基本的な考え方	講義及び演習：講義にて基本的な考えを行い、演習にてICFや法的根拠に基づく介護を理解する	(9)－①
	②介護に関するところのしくみの基礎的理解	講義及び演習：ところのしくみを講義にて行い、記憶の構造や意欲を支援に結びつけることの理解を深める	(9)－②
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	講義及び演習：講義にてからだのしくみを行い、演習にて人体の構造やボディメカニクスの理解を深める	(9)－③
	【イ 生活支援技術の講義・演習 (50～55時間)】		
	④生活と家事	講義及び演習：講義にて家事と生活の理解を行い、演習にて機能や基本原則の理解を深める	(9)－④
	⑤ 快適な居住環境整備と介護	講義及び演習：居住環境の基礎知識を講義にて行い、演習にて身体状況に合わせた介護や環境整備の理解を深める	(9)－⑤
	⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	講義及び演習：講義にて整容の意義を行い、実技演習にて着脱介助の理解を深める	(9)－⑥
	⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	講義及び演習：講義にて移動・移乗に関するところのしくみを行い、実技演習にて移乗・移動介助の理解を深める	(9)－⑦

	⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	講義及び演習：講義にて食事の意味や環境整備の方法を行い、実技演習にて食事介助の理解を深める	(9)－⑧
	⑨ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	講義及び演習：講義にて入浴や清潔の意味や環境整備の方法を行い、実技演習にて全身清拭や部分浴の理解も深める	(9)－⑨
	⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	講義及び演習：講義にて排泄の意味や環境整備の方法を行い、実技演習にて排泄の方法などの理解を深める	(9)－⑩
	⑪ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	講義及び演習：講義にて睡眠や体位変換の意味や環境整備の方法を行い、実技演習にてベッドメイキングや体位変換の理解を深める	(9)－⑪
	⑫ 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	講義及び演習：講義にてターミナルケアの考え方や留意点を行い、実技演習にて対応方法や介護職の役割の理解を深める	(9)－⑫
	【ウ 生活支援技術演習 (10～12 時間)】		
	⑬ 介護過程の基礎的理解	講義及び演習：講義にて介護過程の目的や意義を行い、個別援助計画の作成演習にて展開の理解を深める	(9)－⑬
	⑭ 総合生活支援技術演習	講義及び演習：講義にて事例の意義や留意点を行い、演習にて事例に基づき討議をし、実技演習にて理解を深める	(9)－⑭
(10) 振り返り (4 時間)	① 振り返り	講義及び演習：講義にて研修での学びを振り返り、今後継続して学ぶべきことなどの討議をした後、発表まで繋げ理解を深める	(10)－①
	② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	講義及び演習：講義にて働く現場における継続的学習などを行い、演習にてキャリアパスやOJTなどの理解を深める	(10)－②

※1 実施計画欄に、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※2 実習を実施するにあたっては、本要綱「14 実習」の内容に留意すること。